

輪ギク養液土耕栽培12月出荷作型における土壤水分量		
[要約] 輪ギク「神馬」を用いた養液土耕栽培の加温12月出荷作型では、pF2.0(10cm深)を目標に灌水を行うと、2L品(85cm調整65g以上)の割合が多くなる。		
茨城県農業総合センター 鹿島地帯特産指導所	成果 区分	技術参考

1. 背景・ねらい

灌水、施肥(追肥)の省力が図れる輪ギク養液土耕栽培について、砂質土壤に適した栽培管理法の開発が求められている。そこで、加温12月出荷作型における最適な土壤水分量について検討した。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 栽培期間中の土壤pF値の平均値は、pF1.7区では1.72、pF2.0区では1.87、pF2.2区では2.05であり、1日当たりの灌水回数は、pF1.7区では0~4回、pF2.0及び2.2区では0~3回であった(図1, 図2)。
- 2) 草丈はpF1.7区で長く、花首長はpF2.2区で短く優れていたが、葉数及び茎径はpF2.0区で優れていた(表1)。
- 3) 85cm調整65g以上(2L品)の比率はpF2.0区で大きく優れていた(表2)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 当成績は鹿島南部地帯の砂質土壤における試験成績であるため、地域や栽培施設の相違により、異なるので注意が必要である。

4. 具体的データ

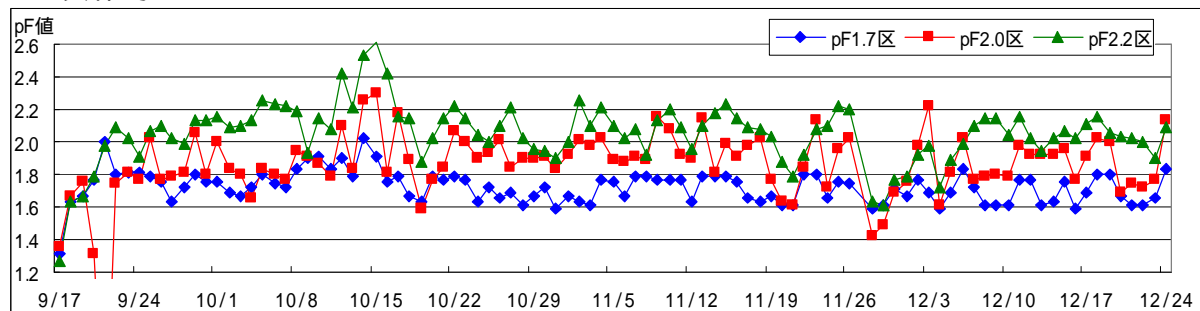


図1 p F 値の推移 (株間 10cm 深)

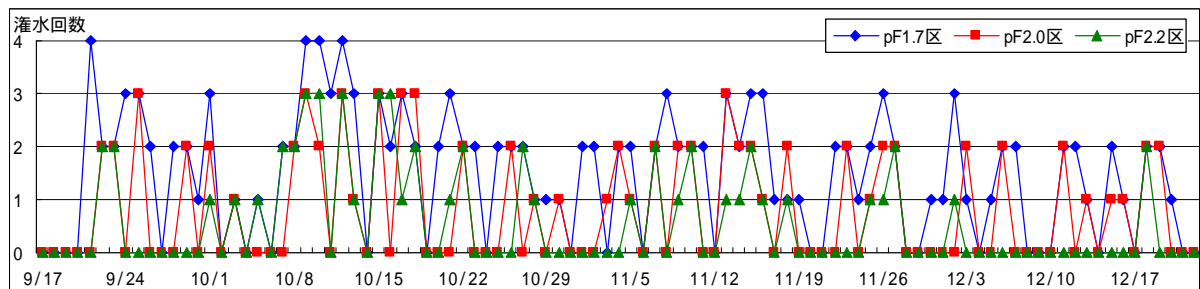


図2 灌水回数の推移 目標 p F 値になるよう 1 回に株当たり 14mL 灌水した。

表1 養液土耕栽培¹⁾における土壤水分量の違いが切花品質に及ぼす影響

試験区名	平均開花日 (月/日)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	柳葉数 (枚)	茎径 ²⁾ (mm)	花首長 (mm)
pF1.7	12/19	94.5	50.3	1.6	5.0	34.9
pF2.0	12/18	93.7	51.0	1.7	5.2	31.5
pF2.2	12/19	86.2	48.8	1.6	4.8	30.6

1)養液土耕: O社製。ピッチ20cmの点滴チューブを条間に2本設置。O社養液土耕用肥料(14-8-25)希釈液を6:00に1.3L/m²(14mL/株)施用。
(9/14~21:900倍液(N 200mg/m²・日,2.25mg/株),9/22~12/12:450倍液(N 400mg/m²・日,4.5mg/株)
目標pF値になるよう、日0~5回灌水。(1回に株当たり14mL灌水)

2)花の付け根から20cm下の茎径

挿し芽:8/22 定植:9/10 栽植方法:畦幅60cm,株間7.5cm,条間15cmの4条植え 電照(21:30~2:30):9/10~10/20

再電照(21:30~2:30):10/31~11/3 加温(18℃)10/19~11/17,(16℃)11/18~ 矮化剤処理:ピーナイン1,000倍液を11/12,24に約1.6mL/株散布

表2 土壤水分別 85cm 調整重分布割合(%)

試験区名	85cm調整重 ¹⁾					切り花長 85cm未満
	65g以上 (2L)	50~64g (L)	40~49g (M)	30~39g (S)	29g以下	
pF1.7	7.0	50.4	15.7	10.4	1.7	14.8
pF2.0	17.6	37.8	18.5	3.4	0	22.7
pF2.2	2.5	16.1	5.1	0.8	0	75.4

1)85cmに切り揃えた後、下部20cmの葉を除去

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

鹿島南部砂質地帯における輪ギクの生産性向上技術の確立・平成16~平成19年度
鹿島地帯特産指導所